

## 平成30年度第2回館林市子ども・子育て会議 会議録概要

1 日 時 平成30年11月30日（金）午前10時00分～11時30分

2 場 所 市役所5階研修室

3 出席者

【館林市子ども・子育て会議委員】 13名

森会長、永井副会長、大谷委員、角田委員、倉上委員、荻野委員、鎌田委員、飯塚委員、阪田委員、稲田委員、小澤委員、平林委員、田端委員（以上名簿順）

【事務局】 11名

保健福祉部：中里部長

こども福祉課：石崎課長、妻神子育て支援係長、萩本保育係長、恩田主任、砂賀

児童センター：鏡所長

健康推進課：武政母子保健係長

教育総務課：鈴木課長、武井総括係長

生涯学習課：石井課長

【委託業者】

株式会社ワイズマンコンサルティング 山口研究員

【傍聴者】 なし

4 議 事

(1)館林市子育て支援ニーズ調査票（平成30年度版）（案）について

(2)その他

5 配布資料

・会議次第

・館林市子育て支援ニーズ調査票（案）

就学前児童保護者調査票

小学生児童保護者調査票

・就学前児童保護者調査票の設問属性（量の見込み必須項目一覧表）

・小学生児童調査票の設問属性

6 会議内容（概要）

1. 開 会

2. あいさつ

3. 議 事

(1) 館林市子育て支援ニーズ調査票（平成 30 年度版）（案）について

・事務局、委託料者より説明

【質疑応答等】

委 員：調査の趣旨を明確にして、保護者に調査の重要性を訴える必要がある。2 ページの図と表紙の「記入にあたってのお願い」を差し替え、調査が何に役立つのかということを強調していただきたい。

委託業者：調整させていただく。

会 長：調査票のフォントを変えても印象が違う。

委 員：調査票の選択肢の番号について、数字では順序や重みを表すため、あいうえおやアルファベットで表記はできないのか。問 40 市の子育て支援の満足度については満足が 1 で、不満足が 5 というのは違和感がある。

委託業者：数字を使う印象はあると思われるが、調査票のデータ入力の都合上、数字の方が打ちやすくスムーズに入力できるため、数字を使わせていただきたい。また、問 40 については、満足を 5、不満足を 1 という表記に修正する。

委 員：内容的なものでファミリー・サポート・センター事業の説明を追加していただきたい。調査と合わせて、各種事業やサービスの内容等の周知を進めていただけたらと思う。

委 員：就学前調査票の問 20 について、子育て支援拠点事業では分かりにくいいため、子育て支援センターなど分かりやすい表記が良いと思う。また、問 35 子育てに関して日頃悩んでいること、また気になることはどのようなことかの選択肢の内容を読むと全てマイナスで、ネガティブな気持ちになってしまう。もう少し選択肢を絞っていただくか、気になることや知りたいことなど設問の趣旨を変更した方が良いかと思う。

委託業者：検討させていただく。

委 員：前回の小学生の調査の回収率が低い。今回回収率を上げるための策はあるのか。

事 務 局：前回は郵送による調査だったため、回収率が低かった。今回は回収率向上のため小学校等を通じて配布回収する。

委 員：回収率ではなく、むしろ回収数について目標をもって取り組んだ方が良い。

委 員：私は毎日 17 時まで働いていて、その後保育園や学童へのお迎えに行ったら家に帰ると 18 時過ぎてしまい、すごく疲れているときにアンケートと言われても後回しになってしまう。アンケート調査について、スマホやインターネットを活用して調査はできないか。

事 務 局：今後検討させていただく。

委員：問 12～問 14 の親の就労状況について、母親の就労を聞いたり、父親の就労を聞いたり、質問が行き来しているため答えにくい。母親の就労、父親の就労の設問をまとめることは可能か。

事務局：可能。調整させていただく。

委員：就学前調査票の問 41 で「幼稚園を増やしてほしい」という選択肢があるが、これを選択する人はほばいないのではないか。なぜなら、今現在幼稚園は定員割れしている状況のため、ほとんどの人が「保育園を増やしてほしい」を選択するのではないか。そうすると、幼稚園はなくそうという動きが出てしまう気がする。例えば、給食費や延長保育の時間の問題など、幼稚園と保育園との問題の差がなくなれば幼稚園に通わせたいと思うかというような設問表記にすれば良いのではと思う。また、平成 31 年度から第四小学校で小規模特認校になるが、認知度を図ったらどうか。

会長：PR は PR でしたほうが良いのでは。

委員：幼稚園は就園率が 50 を割っている状況。保育園は 90% 以上の就園率でその差は何かと考えたとき、やはり教育面では変わらないが、親が長時間預けられる場所かどうか。幼稚園の保護者以外で、幼稚園が 17 時まで延長保育をやっていることを知っている人がどのくらいいるのか。幼稚園の預かり保育の認知度を図っていただきたい。

委員：幼稚園と保育園の違いが分からない人も多いのではないか。幼稚園や保育園自体のサービスの認知度も図ってほしい。例えば、広報紙に館林の教育・保育や四小の件など、調査と同時期に掲載してもらえたら分かりやすいのではと思った。

委員：幼稚園の教育要領と保育要領が変わってきた。入園時にアンケートをやっているが、預かり保育をやっているから入園したという保護者が増えている。就学前調査票について、17 ページの問 35 の選択肢 13 に「幼稚園」も加えていただきたい。

委員：放課後子ども教室について、小学生児童調査票の問 20 で認知度を聞いているが、あったら利用したいかという利用意向を聞いたらどうか。放課後児童クラブを運営している中で、放課後子ども教室ができてしまうとお客様が取られてしまうと思っているクラブもある。そういうことではないという判断材料にもなると思うし、放課後子ども教室を認知するためにも良いと思う。

委員：子育て支援の各サービスについての周知もさらに必要と思う。

委員：質問数や選択肢が多い。保護者への負担が多いため、簡易的にしてほしい。

委員：アンケート調査結果については、今後事業量などに活用していくことになるが、その結果だけで判断するのは怖い。ニーズの扱い方を慎重に検討していく必要がある。また、子育て支援に関する関係機関が集まって行う子育て支援連絡会議があったが、子ども達を安心して育てるためにはどのようなことが必要かというテ

ーマでグループ討議をしたが、その前に、育てるための子どもを産む産科が1箇所しかないという問題がある。2人目、3人目の子どもを産んだ時に、市内の産科でないと中々家族が会いに行けないという意見もあった。このニーズ調査の設問にも載せても良いのではと思ったが、この機会に参考に話をさせてもらった。最後に、幼保無償化による市町村の財源負担が今後多くなってくるという話が出ているが、公立保育所の民営化についても今後検討していただきたい。全国的に公立保育園を民営化する動きがあったときに、館林市は三野谷保育園1園を民営化した。その後、前回子ども・子育て会議の渡辺会長を会長にして、民営化推進委員会を立ち上げたが、そこでは4~5園の民営化を方針として掲げていた。それは公立保育園をなくすということではなく、財源の問題であって、民営化することによって浮いた財源を他の事業で使えることになる。保育園業界からすれば、保育園に振り分けていただければより良い保育園運営ができる。第2期の計画策定にあたってちょうど良い節目である。民営化についての検討を再度進めていただきたい。

委員：アンケート以外で保護者の意見を聞ける場を増やしてほしい。インタビューなどがあればこちらでも協力する。

- (2)その他 三野谷保育園のこども園化の移行について  
・事務局より説明

#### 4. 閉 会